

日本福祉大学 松本オフィス 第16号

松本オフィス通信

INDEX

■ 学生奮戦記!	1	■ 2014信州+(プラス)	4
■ 震災支援	1	■ 私の仕事	
■ デパートユニット	2	■ -福祉大学卒業生は今-	4~5
■ あなたの街の高校訪問	2	■ 高齢者写真展	5
■ 高大連携	3	■ 創造の王国展	5
■ 学生へのメッセージ	3	■ 長野県地域同窓会	6
~岡庭 一雄氏より~	3	■ 入試情報	6

長野県出身の学生奮戦記!

森の木陰で

社会福祉学部3年
西村 萌



みなさん、日本福祉大学美浜キャンパスにある「ふくしの森」を知っていますか?

愛知県のお
いち森と緑づくり税で整備された森です。わたしは、この森を主な活動拠点としているサークルに入っています。その名も「きのこクラブ」。元々自然が好きで、友達から自然を生かした活動をするという話を聞き、興味を持ち参加しました。2013年の6月に発足し、メンバーは大学職員の方も含めると15人程です。

自然の恵みを使ったお料理会やクラフトをしたり、大村愛知県知事と愛知県内の7つの大学の学生同士とで愛知県でのように環境活動を盛り上げて、さらによいか意見を交わした大村知事と語る会に参加してきました。

ふくしの森をはじめとする、美浜キャンパス付近では、季節ごとに様々な自然の恵みや出合いがあります。

春はたけのこ祭りというイベントがあり、きのこクラブはそのお手伝い。学生だけでなく、地域の人など誰もが参加できるイベントであり、ふくしの森で採れた菌を使ったお料理をいただいたり、実際に菌掘りをしたり、竹林が涼しげなふくしの森内で心地よいジャズが演奏され

たりしていま

した。
夏は、7月頃に、木になるヤマモモという赤い実を使って、ジャムを作ったり、ケーキを作ったりしました。(右の写真



“食欲の秋”と言われる秋は、アケビ・銀杏・きのこ食べられるものもあります。を美浜キャンパス付近で収穫し、炊き込みご飯を作ったりしました。また、紅葉がきれいな季節でもあります。

そして寒くなり冬がやってきます。その頃に拾った、松ぼっくり・どんぐり・木の枝などを使い、フクロウや羊を作るクラフトに挑戦するのです。このように、季節ごとに出会う自然と共に楽しむ活動をしています。興味のある方がいたら、Facebookで活動の様子やつづきをメンバーが更新しているので、ぜひきのこクラブと検索してみてください。



(松商学園高校出身)

きのこクラブFacebook
<https://www.facebook.com/nfu.kinokoclub>

今の自分たちができることは何だろうー震災支援ー

2014年も日本各地でさまざまな災害がありました。そのなかで日本福祉大学災害ボランティアセンターを中心に、学生・教職員の機敏な活動がすすめられました。

長野県に限っても、7月、台風8号による木曾谷を襲った豪雨災害に対し、地元蘇南高校出身で子ども発達学部の太田百香さんを先頭に、長野県学生県人会も協力して、美浜キャンパスでも募金活動が行われ、7万円余が集まりました。



11月22日の神城断層地震では、小谷村の祖父母の家に滞在していて家屋全壊の被害にあった学生県人会の種山会長も参加して、延べ50名の学生による募金活動が12月17日〜19日の3日間、美浜キャンパスで行われ、11万円余の義援金が寄せられました。

この取り組みは信濃毎日新聞でも報じられました。
これに先立って、11月末には社会福祉学部の村上、野尻、原田の三先生と学生10名が被災地に入り、現地の救援活動を行いました。
また、義援金は小谷村、白馬村に寄付されました。



福島県浪江町の支援活動も

原発事故による避難が長期化し、深刻化する浪江町の人たちを支援しよう、と同町出身の佐藤まみさん(子ども発達学部)を中心に、駒ヶ根市出身の堀葉月さん

などの支援グループが、11月の大学祭期間中に、B級ご当地グルメでも有名になった「浪江焼きそば」の店を出店しました。やる以上は本格的に、というこで佐藤さんのお姉さんにも来ていただき、調理法を習ったこともあって評判は上々。収益は浪江町に寄付しました。



また別のグループは同じく大学祭で岩手県のお菓子と海産物の詰め合わせセットを販売し、こちらも多くの支援が集まり完売しました。

仙台を中心に活動している秋の花プロジェクトとともに、3. 11支援は継続的に進められています。

友好協力宣言・包括協定を締結する7市町村で、防災協定が締結!

学園創立60周年記念式典が行われた6月8日に友好協力宣言及び包括協定を結んでいる7自治体(愛知県美浜町、山形県最上町、山形県遊佐町、富山県南砺市、長野県宮田村、長野県阿智村、長野県辰野町)と、防災まちづくりの推進及び災害時における相互協力に関する協定書」を締結しました。

この協定は、災害時の相互応援協定にとどまらず、まちづくりの視点で防災を捉え、地域住民の防災意識の向上と、その取り組みへの相互協力や情報共有を主な目的としています。

今後は、各防災担当者、各学習会を重ねつつ、高齢者や障害者の避難の在り方等、市町村と福祉系大学と関わる特色ある協定として、内容を充実させて行く予定です。



キムタクのおにぎりにって何だ？ -デパートユニット-



大学の研究者や急百貨店の民間企業の方たちの協力も高かった。校生の活動を支えています。

商業科がとも元気で。昨年8月、長野市の東急百貨店を会場に第2回「デパートユニット」が開催され、北は須坂商業高校から南は阿南高校まで、14校が参加し、生徒たちが企画・開発にかかわったオリジナル商品の販売に取り組みました。

このデパートユニットには県内だけでなく、北海道留萌はじめ、広島県福山まで、全国9県11校からも参加があり、ご当地名産となりそうな商品は最終日をまたずに完売。

商業学習を基礎に

この活動のなかで注目したいのは、高校生が学校の枠を超えて「マーケティング塾」での学習を基礎にしている点です。

学校ごとに、新たな商品開発に取り組んでいるのですが、新奇さ、珍しさや思い付きにとどまらず、地域資源の発掘や「ブランド戦略」、商品開発、価格戦略などの講座を8回にわたって受講し、学校の枠を超えて学び合い、協力し合いながら準備をすすめてきたのです。



“高校生バイヤー”として

8月、合計25校が勢揃いしたデパートユニットには、これ以外に、高校生が選んだ全国の名物商品が並んでいました。徳川家康生誕の地、愛知県岡崎市の岡崎商業高校からは「天下のかりんとう」、鹿児島県奄美市の奄美高校からは「奄美ラスク」など、自分たちで選び、輸送手段を顧問の先生たちとも相談しながら販売にこぎつけたのです。

工業科の作品も

食品が多彩に会場に並べられていましたが、唯一、「ものづくり」の立場から参加したのが木曾青峰高校です。テリア科です。同校には木曾山林高校の伝統が



引き継がれています。組み木細工を思わせるデザインのコースターも人気がありました。星座ごとに意匠を変えた「星のストラップ」などは、若い世代に強く支持されているようでした。さて、キムタクのおにぎりにって何でしょう？

会場で、ちよつと変わったおやき（松本手毬にちなんだ松本手毬おやき）と小さめの4種のおにぎり（わさび、キムタク、キノコ、野沢菜のセット）を買って、さっそくいただきました。わかった！

キムチたくあん！デパートユニットはまさに高校生の「科学と情熱の集合体」といえるものです。

あなたの街の高校訪問 長商デパート大売り出し 長野商業高校

長野商業高校の「長商デパート大売り出し」は、今年第90回を迎えました。学校創立は明治33年。その2年後には最初の物品販売市場が開かれています。これが起源といえは起源なのですが、長商デパートのパンフレットによれば、大正5年の「第一回全国名産品十種販売」を第1回としています。いずれにせよ、全国有数の歴史を誇っている取り組みです。



実施主体は、生徒・教職員の出資による模擬株式会社「長商デパート」。今年のパンフレットを見ても、校長先生と並んであいさつ文を書いているのは3年生の藤原圭吾君。肩書は「代表取締役社長」です。社長、副社長以下、4部7課13係18売場に分かれています。「株式会社」になったのは昭和26年からですから、こちらも60年以上の歴史があります。

人気は鮮魚店？

10月の売り出し日、校内に入ると、まず中古車売場があり(!)、そこを過ぎると、にぎやかな売場が響いてきます。鮮魚店のコーナーです。サケ、サンマ、アジ、各種海産物まで、威勢の良い掛け声が響いています。声で売る、というくらい活きの良さです。イカ焼きも大行列。生徒はどこの売り場に行くか、まずは自由にエントリーできるそうですが、売り場の生徒に聞くと、何とんでも魚屋が一番人気とのこと。わかります。颯爽としているからね。その点では野菜コーナーも人が集まっていました。



白菜も安いけど重い...という、なんとピンクのビブスを着た「お荷物運び隊」が現れ、駐車場まで。お年寄りの方々にたいへん好評とのこと。係りの生徒に聞くと、第一希望のところは外れて、ここに回ってきたが、駐車場まで行くとき、何度も何度もお礼を言われて、何だか恥ずかしかったけど、とても気持ち良かった、と感想を話してくれました。



そば打ち3年？

ドーナツなどの甘味コーナー、ファストフード、そして食堂と飲食コーナーも充実していて、気分が入っていました。聞けば、蕎麦の担当者は夏休み中に本職の方に教えてもらい、その中から選ばれた生徒が麺を打っているとのこと。袋に入ったものを温めて出す、という安易な方法をとっていないのです。ご立派！ただ薬味のネギがややザク切り状態だったのは、ご愛嬌でしたが。



長野聾学校との連携も

また長野聾学校の製品販売と就業体験のレポートなどが壁に張り出されていました。

木工品やトートバックなどもなかなか素敵なので、こうした製品化も同校と長商のコラボレーションによって進められています。

3.11被災地支援の継続

震災支援の取り組みでは、鮮魚店には宮城県産の蒲鉾などの海産物が並び、教室の名産品コーナーでは岩手県のカシス羊羹や、「復幸」(興)のクジラの缶詰やサバ缶、さらに水沢商業高校(岩手)とのコラボ商品や色鮮やかな大漁旗プレスレドが販売されていました。東北支援の取り組みがこうして継続されているのです。



マニュアル化された「サービス」でなく、実践を通じて「商業」を学び、深めようとする長商生の自覚的な努力が、来訪者にとってはある種の心地よさ一触れあい、交流する一として感じられるのだと思われます。お年寄りの方たちから子どもたちまで、幅広い世代をもてなすための工夫も凝らされていました。配られていたリーフレットのなかに、「心は高く身は低く」とありました。ここに生徒・教職員の学びと実践への気迫を感じた「大売り出し」でした。

新しい高大連携の創造へ

高遠高校文理進学コース2年生の学習ツアー in 美浜キャンパス

美浜キャンパスでは9月9日、高遠高校文理進学コースの2年生の学習ツアーを受け入れました。

このツアーでは生徒が人文・人間・自然の3分野に分かれて講義を受けましたが、講義の展開については同校と松本オフィスで相談を重ね、専門分野の講義を受けるだけでなく、それぞれの教員が高校・大学・大学院を通じて、どのように学んできたか、問題関心を広めてきたか、ということに関して話していただき、進路選択の参考にすることに留意して行われました。

高大連携の取り組みは全国で行われていますが、今回のように、テーマや講義内容について意見交換しながら実施されるケースはあまり多くありません。大学、高校の教育改革をめぐるさまざまな試みが行われていますが、注目される取り組みです。

3分野の講義テーマと担当教員・研究分野は次の通りでした。

〈人文分野〉 「アメリカ詩と私」

社会福祉学部教授 小泉純一・ヨーロッパ語系文学

〈人間分野〉 「わたしの学びのはじまり」

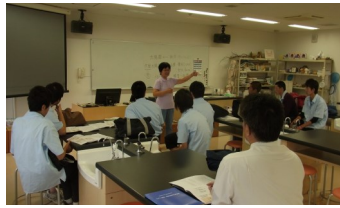
子ども発達学部准教授 東内瑠璃子・教育学(幼児教育)

〈自然分野〉 「アサガオの観察から学べること」

小学生の観察記録に見られる科学の営み-」

子ども発達学部教授 水野暁子・植物生理学、理科教育

*当日の講義資料を希望する方は松本オフィスまで。



の実習が行われました。2年生から福祉関係科目を学び、さらに本格的に施設で活動を体験するのは初めてという生徒も多く、この体験から何を学んでいくかは、これからの学習にも大きな意味を持っています。

この点から、2年生の「実習のふり返し」にあたって、本学社会福祉学部の学生の協力を得て、実習体験で学んだこと、疑問に思ったこと、うまくいかなかったことなどをもう一度とらえ直そう、ということがこの企画の主旨です。

大学に到着してからまず90分にわたるディスカッション。1グループは生徒3名対学生2名。



高校生はこの交流会に当たって、実習体験の見直しのレポート、自己紹介文を全員が書き、さらに分担して学校と下伊那地域の歴史や文化、特徴について冊子を作ってきましたし、学生たちも、事前レポートに書かれた問題点や疑問点について議論し、それぞれがアドバイスをまとめてきていたので、自己紹介の後の議論はかなりスムーズに行われました。

施設に行き、「自己紹介のあと何を話してよいか、頭の中が真っ白になってしまった」など率直に体験を出し合う中で、学生たちからも様々な失敗の経験から、どのように学び直していったかが話し合われ、交流はこのあと学生食堂でのランチタイムにも続きました。

図書館の貴重本も閲覧しました

両校とも、キャンパス見学では図書館ツアーをメインにおこなわれ、館蔵のコレクションのうち、1555年発行の『Poor Law』(救貧法)を閲覧しました。図書館の好意により、直接手に取ることができ、「中世にイギリスでこの本を見た人はどんな人だったんだろう？」など想像をたくましくしていました。そうです。ウィリアム・シェイクスピアが生まれる前、日本でいうとまさに戦国時代。織田信長が全国デビューする前の時代ですから。



阿南高校福祉コースの2年生が児玉ゼミと学習交流 in 美浜キャンパス

10月31日には阿南高校福祉コースの2年生の学習ツアーが行われました。

阿南高校福祉コースでは、前期、地元の世界福祉施設で2年生

人間らしい暮らしの創造へ

阿智村 岡庭 一雄



阿智村の有志の皆さんが原子力発電所事故によって不自由な暮らしを余儀なくされている伊達市の中学生を招待してキャンプ等を楽しんでもらいました。最後の夜は、昼神温泉郷のホテルで夕食交流会が行われました。ギターの伴奏に合わせて、土を向いて歩こうを全員で歌い始めたときサプライズがおきました。突然サックスの伴奏が加わったのです。心を揺さぶるようなサックスの響きにみんながびっくりしました。歌が終わりると、ジャズの演奏会になり大喜びでした。サックスを演奏したのは、子どもたちを招待する会の仲間でもある著名なジャズ演奏家の森田修史さんでした。

森田さんは、2012年阿智村で有機農業をするために新規就農しました。農業をやりながら東京等で演奏活動を行っていています。たまに我々も星空の下でのミュージシャンによるジャズ演奏会を楽しむことが出来ます。森田さんは音楽にも田畑にも、関わるその人がどんな人間なのか如実に表れる。そしてその人を作っているのは、暮らしであり食べ物である。自分にとっては分けて考えることができない音楽と農。これからも楽しみながら続けていきたいと思っています。」と語っています。

このごろ増田寛也元総務相を座長とする日本創生会議の分科会は20・30代女性が2040年時点で2010年に比べて50パーセント以上減少すると1万人未満の市区町村523の自治体が消滅する可能性が高いということを発表しました。中山間地の村々がいづれ消滅してしまうのではないかと危惧される報告ですが、私はこの報告を認めることが出来ません。なぜなら、中山間地にこそ未来を豊かにする宝物が存在しているからです。

「マナー資本主義」というお金中心の成長経済への不安や疑問が若い人たちの中に広がっています。自然エネルギー、水、安全な食料等々中山間地の村々で多くの若者がこれらに取り組んでいます。マナー資本主義に代わる里山資本主義」という言葉が最近注目されています。

消滅どころか、未来に生きる若者によつて中山間地は甦るのではないかと期待しています。

(おかにわ かずお・前阿智村村長)

長野県阿智村と日本福祉大学は地域活性化と教育支援の相互協力の協定を結んでいます。協定締結当時の村長であり、16年間にわたって村長として村政を担ってこられた岡庭一雄さんが昨年退任されたので、この機会に地域の未来を担う高校生・学生へのメッセージをお願いしました。

2014信州+ (プラス)

持続可能な地域づくりを住民とともに

社会福祉学部と経済学部合同の地域研究プロジェクトの「人の繋がりによる地域活性化を目指すボランティアコーディネートプロジェクト」（指導教員：経済学部後藤順久教授）が今年も長野県辰野町川島地区で、「半田プロジェクト」（指導教員：鈴木健司准教授）と経済学部教職研究会（指導教員：加茂浩靖准教授）の合同チームが伊那市高遠町で活動を行っています。

辰野町では初めて運動会へ

9月には、これまで継続してきた“花街道”づくりなどの地域活動や認知症予防などの保健福祉活動とともに、4名の学生が地区内の川島小学校の運動会にも参加しました。川島小の生徒は全校13名ですが、その運動会は保護者に加えて、卒業した中学生や老人会などの方たちも参加する、地域最大のイベントです。

そのプログラムに、今年は学生企画の「華のステージ」も加えられました。運動場に設置された2枚の狭いビニールシートに、二つのチームのどちらが早く乗り切れるかを競うタイムレースです。狭いシートですから、小さい子を背負ったり、肩車をしてスリム化を図ったり、シート外に出そうになった人を支え合うなど、工夫が必要なのです。



定住・移住者の受け入れへ

盛況のうちに終わった運動会の後は学生と地元の川島地区人口減少対策委員会の方と今後行う住民調査の打ち合わせ。この調査は川島地区の減少に歯止めをかけ、定住・移住促進を図るため、住民自身がこうした問題をどのように考えているかを探ろうというものです。

防災の取り組みも

また10名余の学生が11月2日の横川峡紅葉まつりにも参加し、手づくりの「防災紙芝居」を

上演しました。子どもたちを中心に多くの参加者があり、親子3代で参加した人もおられたようです。同プロジェクトではこのあと年度末には川島小学校の学習発表会にも参加の予定です。



学生・高校生合同の観光調査が行われました

経済学部の教職研究会の学生と地域研究プロジェクトの学生が、昨年にも続き11月2日、3日、高遠高校情報ビジネスコースの生徒と共に「第13回高遠城址の秋まつり」の来訪者に対し、観光アンケート調査を行いました。参加したのは学生10名と高校生10名。

高遠は桜の名所として全国的に知られていますが、実は秋の紅葉も見事なのです。今回の調査は、高遠の認知度や交通路、情報アクセス、周辺の観光地も含めた新たな観光対策の検討などを視野に入れたもの。夏の時期から大学・高校それぞれで担当の鈴木准教授の指導をうけながら準備してきました。

対面踏査のため、声をかけることに戸惑ったりもしたようですが、最終的には117通の回答用紙を集め、11月15日には美浜キャンパスで高校生を中心とした調査報告が行われました。

学生プロジェクトでは地域の多様な課題を、自分の関心、問題意識にもとづいてそれぞれ分担して活動していることが特徴です。もちろん中には、辰野町、高遠町はおろか、長野県に足を踏み入れたのは初めてという学生もいるとのこと。



「あなたの学生生活に信州を+」「信州にあなたの学生生活を+」!

私の仕事

福祉大卒業生は今!

本人が望む生活を送るために

タカサワ通商株式会社

居宅支援センターふれあい

介護支援専門員 小松 満

介護支援専門員という仕事を始めたのは介護保険制度が始まった2000年。勤務先は変わったが介護支援専門員は14年続いていることになる。

介護支援専門員：ケアマネジャーと言った方が馴染みがあるかもしれない。介護などを必要としている高齢の方等やその家族から悩みや相談を承り、その方が望む生活を実現するために様々な医療・看護・介護サービスなどを結び付ける。このことを「ケアマネジメント」と言い、ケアマネジメントを行う人＝ケアマネジャーである。ケアマネジャーは在宅支援を主とする者と施設生活を支援する者とに分かれるが、私は在宅の要支援・要介護者の方々に支援している。

ケアマネジャーの仕事の流れ

①電話などで介護などの相談をいただいた後、自宅に伺う。本人と家から心身や生活の状況、今までの経過等を聞き、本人が望む生活を送るにはどんな手助けが必要かを明らかにして、具体的に介護サービスなどを提案する。

②本人や家族がサービスを使いたいと希望した場合、実際にサービスを行う事業者（ルバーステーションやデイサービスセンターなど）に照会し、条件に合うサービス提供が可能か否かを確認する。



社会福祉学部Ⅱ部卒
松本蟻ヶ崎高校出身

③サービスを行なう事業者が見つかる。本人や家族、サービス提供事業者がそれぞれ日々どんなことに取り組むことで本人の望む生活を実現できるか、ということをもとめた介護サービス計画書（通称「ケアプラン」）の原案を作成する。

④計画書の原案に基づき、本人、家族、サービス提供事業者が一堂に会して、本人の望む生活の実現に向けての目標と具体的サービス内容の確認を行なう。こうしてようやく実際にホームヘルプサービスやデイサービスの利用が開始される。

⑤計画を作った後は、毎月1回は自宅を訪問して本人と家族へ心身状況の変化やサービス利用状況の確認などを行ない、来月もサービスを継続するか否かを判断する。

ケアマネジャーは①から⑤を繰り返していき、緊急の対応が必要な場合は臨機応変に対応している。

仕事の流れの中で、本人の望む生活」と言う言葉を繰り返してきてきた。家族が望む生活でもケアマネジャーが押しつける生活でもない。本人が望む生活を如何に実現させていくか。難しいことであるが、その軸を外すことなくこれからは取り組んでいきたい。

おじいちゃん、おばあちゃんの写真を写そう

茅野市美術館の「寿齢讃歌」

80歳以上の方を被写体とする全国的にもまれな公募写真展「寿齢讃歌」が9月、茅野市美術館を会場に開かれました。作品はプロカメラマンから小学生まで104人による140点。傘寿をこえてフライパンで料理しているオヤジさんから畑でのツーショット、あるいは孫娘とのスキニップなど、ふだんのくらしの風景がさまざまなテーマで展示されました。

会場ではモデルとなったお婆ちゃんを囲んで家族の記念写真があちこちで撮られ、写真展を監修されている写真家の木之下晃氏（日本福祉大学社会福祉学部卒業生）もその輪に加わる風景も。



博物館実習中の信大生と木之下晃氏



写真展には学園の黒川専務理事も

美浜キャンパスでも写真展を開催

茅野市美術館の展示作品の中から、出品者と茅野市美術館の協力により、44点の作品をお借りして、美浜キャンパス12号館でも10月末から11月末まで、高齢者写真展が開かれました。

大沢勝前総長など教職員の作品とともに、国際福祉開発学部4年の野北君の写真も展示されました。これまで、教職員の写真は数多く出されてきましたが、学生の参加は初めてのことで、写真は祖母・母・孫・曾孫が揃った、祖母から始まる4世代」というタイトルの作品でした。

また11月12日には、茅野市美術館の学芸員および写真展運営を担うNPO法人サポートC美遊com.のメンバー4人が学内写真展の見学に来られ、丸山理事長とも懇談されました。

2015年は写真展が10周年を迎える節目の年であること、また東海キャンパスの開設年にもあたることから記念となる事業を双方で検討する意などが話題に。



魂に潜む神秘―日常に宿る表現―というサブタイトルがついた「創造の王国」展は、さまざまな障害を抱えた人が持つ表現活動の魅力をより多くの人に紹介しようと企画されたもの。松本駅の東西自由通路で開かれているアート&クラフト展（松本オフィスブログに紹介）とは異なり、継続的な美術館企画としてはとても重要なものです。

昨年11月に開かれた美術展には79人から318点の作品群が寄せられました。地域で暮らしている方、施設に入所している方から養護学校、特別支援学級の子どもたちまでの作品は作者の内面の表現として見る者の内面も時に激しく揺さぶるのです。

辰野美術館「創造の王国」展

作者が、作品を描くことにのみ集中しているという純粹さが強く印象づけられます。

また辰野美術館内では作者の所属する施設や団体で作られている製品の販売も行われたほか、サテライト展示」として辰野町内のカフェ、ホテルなど4か所でも作品が展示されました。創造の王国展のチケットを提示すると、割引があったり、コーヒーが無料になるなどの特典付きで、美術館と障害者アートを支える基盤づくりがすすめられたものです。（いねい）



辰野美術館HP <http://artm.town.tatsuno.nagano.jp/>

社会人学生の皆さんへのメッセージ 社会福祉法人上伊那福祉協会 特別養護老人ホームかたくりの里 施設長 箱山 み江子

私が高齢者福祉に関わったのは介護保険制度導入以前、今から19年前でした。資格も経験も無い全くの初心者でしたから、自分達の知識や経験の無さに怖さと恥ずかしさ、利用者の皆さんに申し訳ないという同じ思いの仲間と共に、自主的に研修会を見つけては県外にでも参加していました。

その間に仕事をすすめる上で必要な資格として「介護福祉士」「介護支援専門員」を取得し、46歳の時、通信教育部学部開設第1期生として入学し、大卒と社会福祉士の資格を取得したのですが、多くの皆さんと同様、変則勤務の介護現場の仕事しながら、学習時間の確保、スクーリングや24日間の現場実習日程の調整、課題提出に奮闘したことは確かに大変で心身ともに辛い時でした。

社会人学生の仲間から福祉にたいする確固たる思いをもって自らの仕事に取組んでいる話を聞くと、自分の考えの甘さや実践力の弱さを知り落ち込んだ時もありました。

当時の私は介護現場で働きながらもなぜ社会福祉士資格をめざすのか！自分の中に明確な答えをもっていない状況だったのです。

学びたいと思った時が「旬」

時間や経費、働きながらの大変な条件等が必ずあります。でも、一歩踏み出す行動力と学ぼうとする意志と学び得たことは、必ず自分の日々の仕事に役立つことを最近特に実感しています。

先日、同じ法人内で生活相談員をしている職員からインタビューを受けまし



た。その人は法人の中で10年以上のキャリアを持ち介護現場や介護支援専門員の業務を経験し生活相談員の職務についています。

なかで彼女は「日々の業務をこなすだけで自分の中の社会福祉士としての専門性がわからなくなっていた。今年には県社会福祉士会の基礎研修を受け、自分に向き合って学ぶ年にしたい」と話されました。私は、彼女の中に一つの花の種が育ち始めたのを感じました。そして今回のように、同じ専門性をもつ仲間と語り合い共通理解を得られ、お互いに課題等をアドバイスできる関係が仕事へのモチベーションアップに大きく作用していくことを実感しました。

高齢者介護施設の現場も制度・利用者・社会背景・人間関係・経済状況等が複雑で困難化するなか、多くの専門職が関わってきています。この中で、それぞれの専門性を単独ではなく連携させて活かす、トータルな視点で考え対応能力を身につけた専門職が今後さらに重要な位置付けになると痛感しています。

自分に時いた「学びの種」がある時は突然に、ある時はゆっくり成長して「学びの花」となると開くという実感は、仕事する上でとても大きなモチベーションとなっています。

何歳になっても、学びたい時が旬期到来！、思い立ったが吉日です。がんばりましょう、みなさん。



通信教育部卒・岡谷東高校出身

Information - インフォメーション -

ワクチンを届ける 国際協力 出願

1日4,000人。
ワクチンがないために、命をおとす子どもがいます。
1出願で1ワクチン。
世界の子どもに希望という贈りものを。

「ワクチンを届ける 国際協力出願」は、受験生の皆様からの出願数に応じて、開発途上国の子どもたちへワクチンを届ける活動です。

「1出願」に対して、子ども一人分の「1ワクチン」を寄付します。

また、今年は「One Action ♥ Project」という新たな社会貢献プロジェクトも始動。

あなたのワンアクションが世界の子どもたちの未来へとつながります。

プロジェクト詳細は以下HPよりご確認ください。

<http://www.n-fukushi.ac.jp/kokusaikyoryokusyutsugan/index.html>



長野県地域同窓会総会・研究集会および長野実習報告会 開催のお知らせ

平成26年度長野県地域同窓会総会&セミナーを下記の日程で開催します。今年は大学から石川満先生をお迎えし、基調講演や長野県内各地でご活躍されている同窓生による実践報告会を開催します。

その他、長野県内で社会福祉士実習を行った在學生(通学課程)の実習報告会も開催予定です。

当日は、同窓生をはじめ、在學生や高校生、福祉関係の仕事に従事されている方、誰でも自由に参加できます。久しぶりの仲間との交流の場として、また人脈を広げる機会として、皆さまのご参加をお待ちしております。お問い合わせ、参加申込は日本福祉大学松本オフィスまで。

- ◆日時 2015年3月1日(日) 12:00~受付開始
- ◆会場 松本市松南地区公民館(予定)
- ◆講師 石川 満先生(日本福祉大学社会福祉学部教授)
- ◆内容

- ① 長野県地域同窓会 総会
- ② 石川先生 基調講演
- ③ 長野実習報告会 & 就職相談会
- ④ 同窓生による実践報告会


※順番は前後する可能性があります。
※詳細は決まり次第松本オフィスブログに情報を掲載しますのでご覧ください。

推薦系入試、ラストチャンス!!!

スポーツ推薦入試および文化・芸術系部活動など推薦入試は、みなさんが今までがんばってきた部活動の実績を活かせる入試方法です。試合の結果や文化系部活動の研究大会等の結果等を含めた書類審査と面接による総合評価で合否が決定します。

尚、スポーツ推薦入試および文化・芸術系部活動など推薦入試に出願するにあたり本学教員と最低1回の面談が必要になりますので、ご希望の方は松本オフィスまでご連絡ください。

※スポーツ推薦入試(指定種目枠)については、選考方法および試験会場、試験日は各サークル指定によります。



手渡しで納得 持参割

日本福祉大学独自の出願方法「持参割」をご存知ですか。持参割とは、願書を直接大学キャンパスや地域オフィス、願書受付会場に持ってきていただき、教職員と面談をすることにより、**入学検定料が10,000円割引**となる出願方法です。一般入試およびセンター試験利用入試で出願を検討されている方はぜひ「持参割」をご活用ください。

尚、県内での願書受付会場は以下の日程開催しますので、お近くの会場へお越しください。

出願期間中は随時松本オフィス窓口でも願書を受け付けています。願書受付会の日程が合わない方や学校帰りに願書を持参される方は、面談日時の調整をしますので、事前にご連絡の上、ご持参下さい。

長野県内願書受付会日程 願書持参・面談で入学検定料 10,000円 割引

◇長野会場

日時:1月25日(日) 13:00~16:00
会場:長野市生涯学習センター

◇松本会場

日時:1月24日(土)/2月28日(土) 13:00~16:00
会場:日本福祉大学松本オフィス

- ・当日、検定料は振り込まず出願書類等(記入済み/写真添付)をご持参ください。
- ・願書受付会詳細につきましては、大学HPをご確認ください。

入試スケジュール	■大学入試センター試験利用入試		■一般入試		■スポーツ推薦入試 文化・芸術系推薦入試	※各入試内容については、再度「入学試験要項」、「入試ガイド2015」を必ずご確認ください。 ※入学試験要項や過去問題、赤本が必要な方は松本オフィスまでご連絡ください。
	前期日程	後期日程	前期日程	後期日程	後期日程	
出願期間 (消印有効)	《全学部出願型》 12/26(金)~1/16(金) 《5教科・3教科・2教科》 1/5(月)~1/30(金)	2/16(月) ~3/2(月)	1/5(月) ~1/26(月)	2/16(月) ~3/2(月)	2/9(月) ~2/16(月)	
試験日	-	-	2/3(火)・2/4(水) ・2/5(木)	3/9(月)	一般:2/22(日) 指定:サークル指定	
合格発表	2/14(土)	3/16(月)	2/14(土)	3/16(月)	2月27(金)	

日本福祉大学 北信越センター松本オフィス
 〒390-0815 長野県松本市深志1-1-24 八幡堂ビル3階
 TEL (0263)31-9011 / FAX (0263)32-8018
 E-mail e-matsumoto@ml.n-fukushi.ac.jp
 OPEN 火曜~土曜 10:00~18:00 CLOSE 日曜・月曜・祝日

日本福祉大学HP
<http://www.n-fukushi.ac.jp/>

松本オフィスBlog
<http://blog.n-fukushi.ac.jp/bc-matsumoto/>

